

# 大日本スクリーン製造株式会社

## 2011年3月期 第3四半期 決算説明会

2011年02月07日

専務取締役 CFO 領内 修

### 本日のアジェンダ

- 2011年3月期 第3四半期連結業績 結果と分析
- 事業環境
- 2011年3月期 連結業績予想修正

#### 資料取り扱い上の注意

- 本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

# 3Q 連結業績結果

## 2011年3月期 3Q 連結業績結果

(単位: 億円)		2010年3月期		2011年3月期							
		実績		実績			前年同期比				
		3Q	4Q	1Q		2Q		3Q		差額	
売上高		457	509	514		589		662		204	
SE		317	313	327		365		495		177	
FE		38	66	82		92		61		23	
MP	その他電子 (PE)	7	16	103	13	130	23	103	11	2	3
	画像静画処理機器 (MT)	93	111		89		106		92		▲1
その他		1	1	1		1		1		0	
営業利益		▲9	26	46		63		75		85	
SE				49		61		88		-	
FE		▲4	28	6		0		▲5		-	
MP	その他電子 (PE)			▲9		1		▲8		-	
	画像静画処理機器 (MT)	▲5	▲2							-	
その他		0	0	0		1		1		-	
経常利益		▲13	17	46		63		74		88	
純利益		5	42	38		57		77		71	

## 2011年3月期 3Q 連結業績分析

## 売上高

実績 662億円 ・ 前四半期 589億円 （前四半期比：72億円増加）

（単位：億円）

セグメント	2Q	3Q	差異	ポイント
SE	365	495	129	・ バッチ式洗浄装置の出荷が増加、SOKUDOも堅調
FE	92	61	▲ 30	・ 売上減少も中小型パネル向け装置売上比率上昇
MP	130	103	▲ 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PE：2Qの反動で売上は低調に推移</li> <li>・ MT：CTPは販売台数ベースで堅調、PODは依然低調（4Qより回復）</li> </ul>
PE	23	11	▲ 12	
MT	106	92	▲ 13	

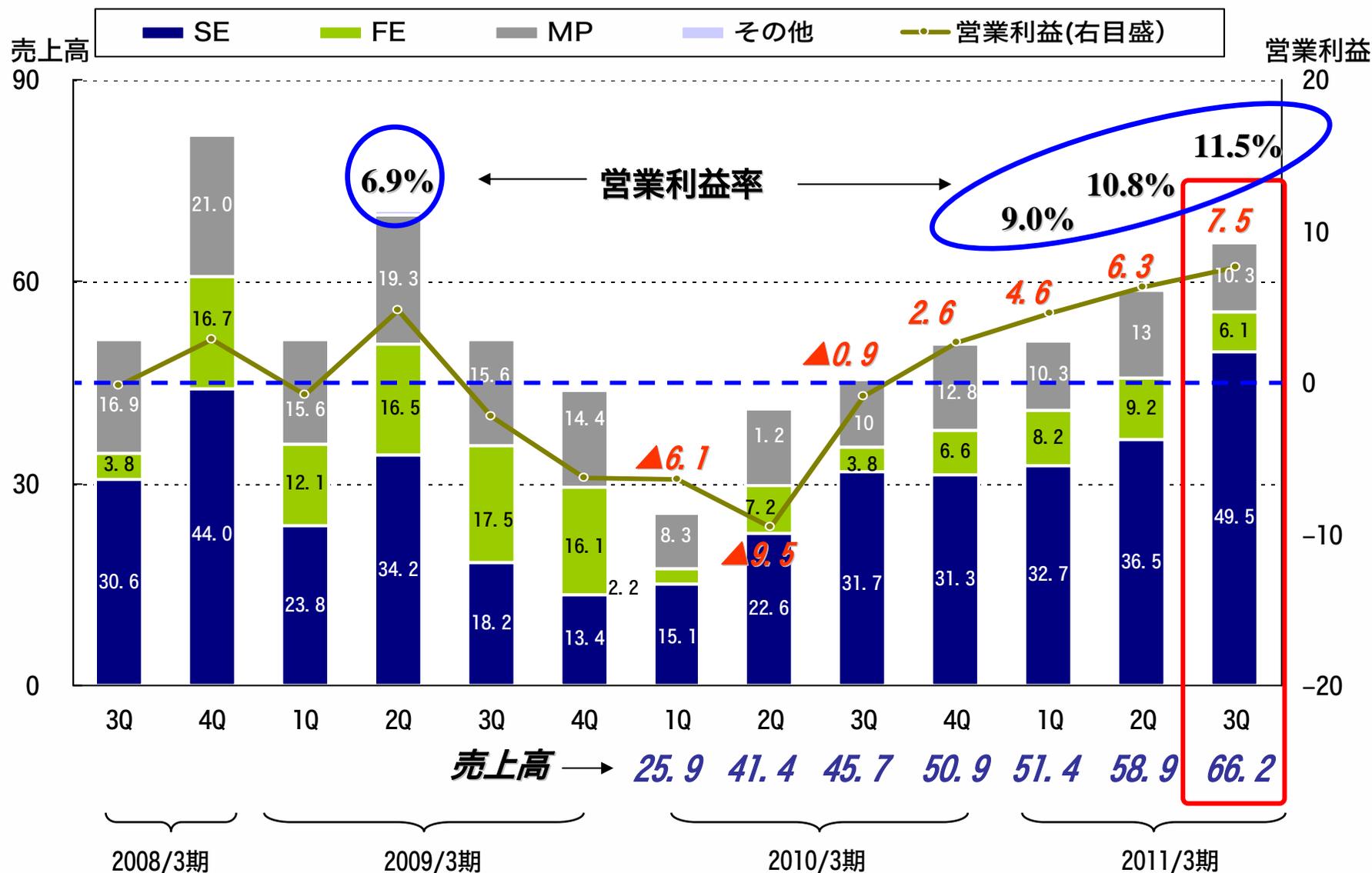
## 営業利益

実績 75億円 ・ 前四半期 63億円 （前四半期比：11億円増加）

（単位：億円）

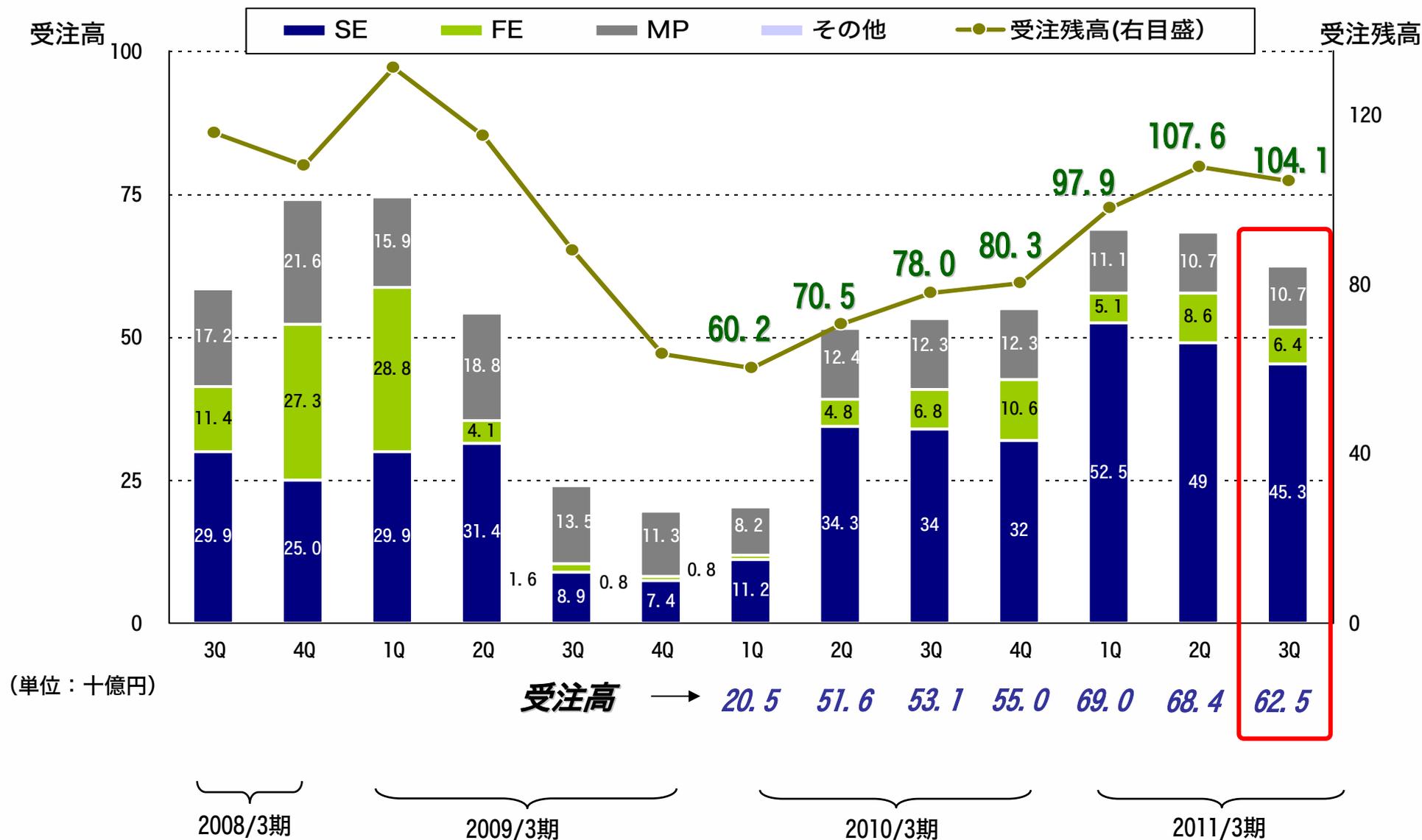
セグメント	2Q	3Q	差異	ポイント
SE	61	88	27	・ 固定費アップを、売価下落抑制、工場操業度改善でカバー
FE	0	▲ 5	▲ 6	・ 変動費率は計画比改善するも、売上減により利益は2Q比悪化
MP	1	▲ 8	▲ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PE：変動費率若干悪化するも、固定費減でカバー</li> <li>・ MT：季節要因による2Q比売上低下のため、利益は2Q比悪化</li> </ul>
PE	-	-	-	
MT	-	-	-	

# 売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



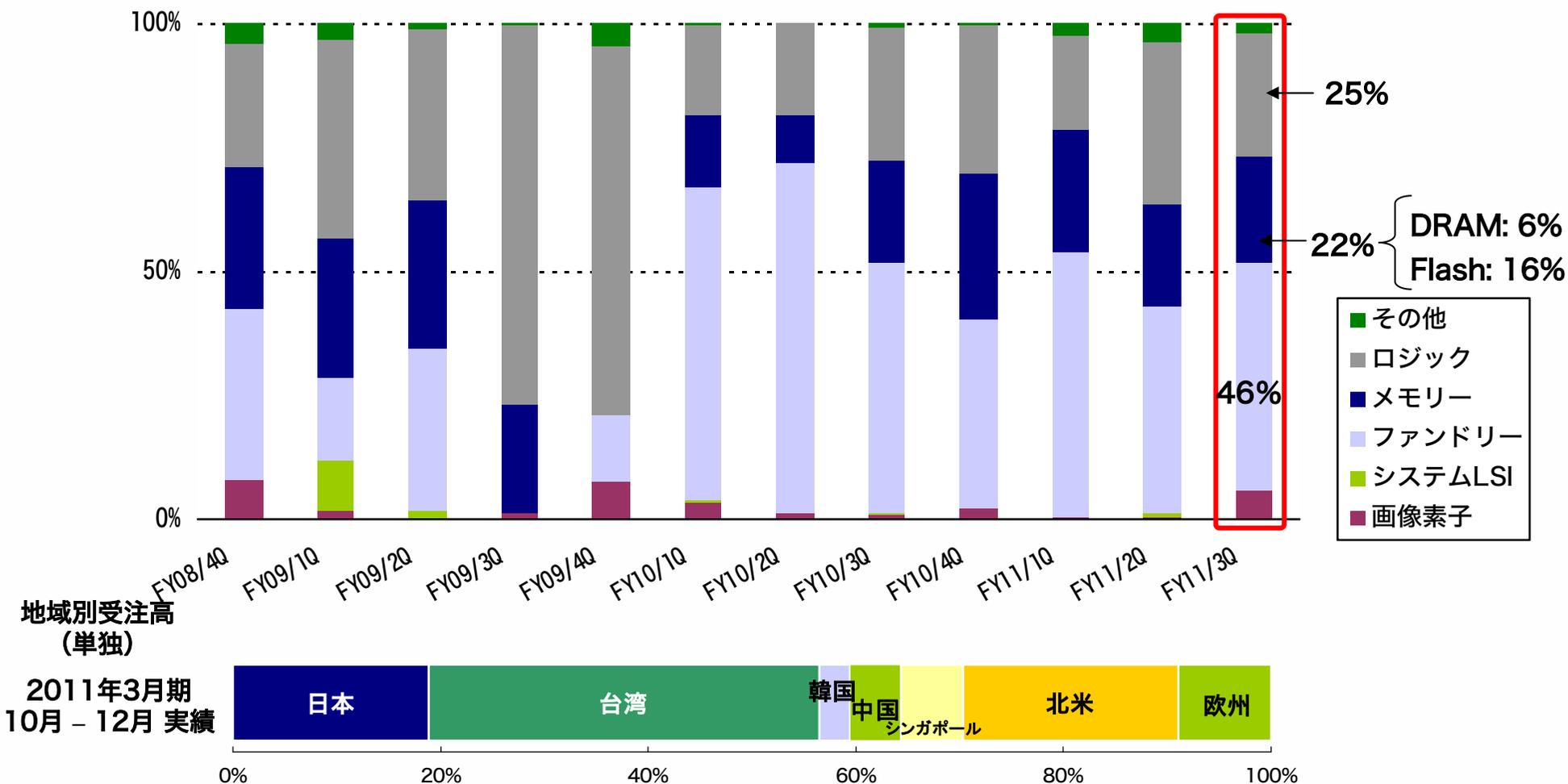
(単位：十億円)

# 受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



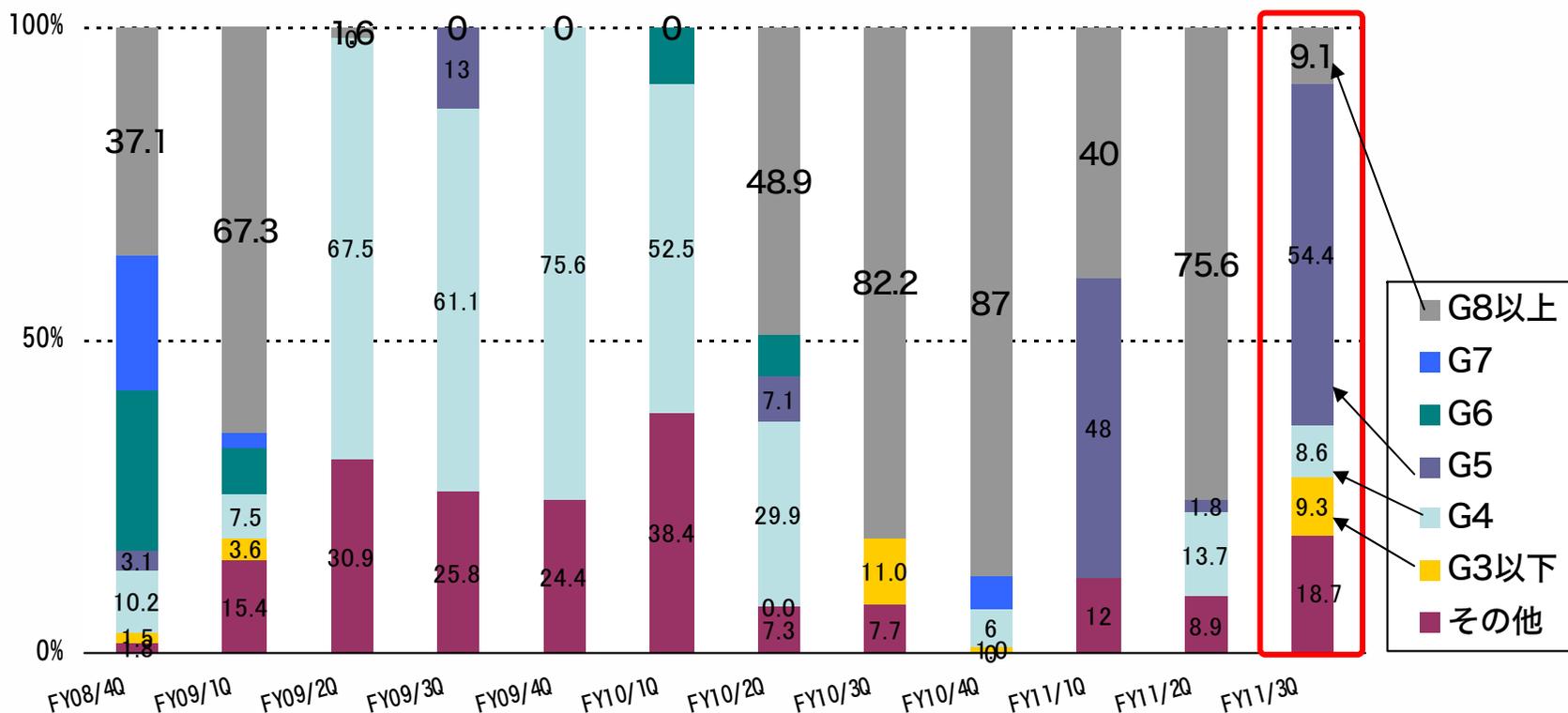
# 半導体製造装置 デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

> 3Q受注高は453億円 (連結)  
 > 4Q受注は500億円超レベルへ！



# FPD製造装置 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

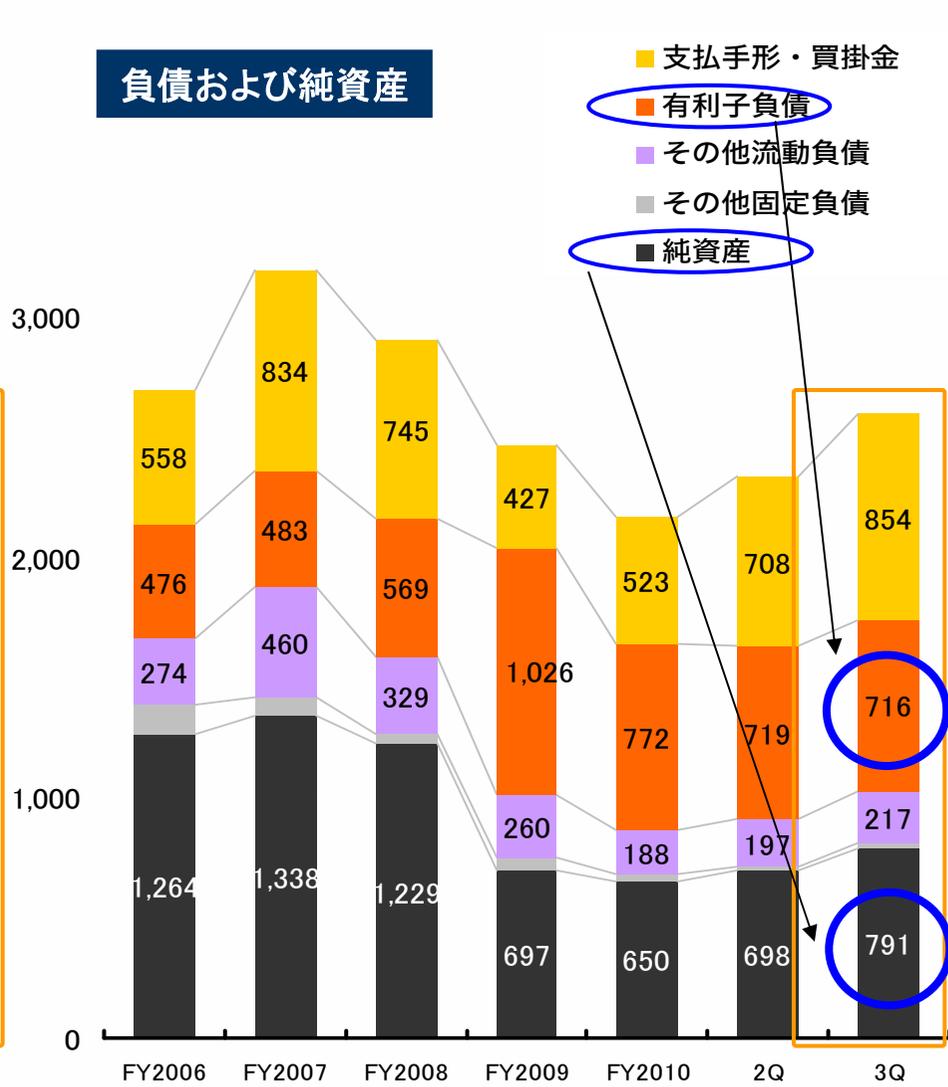
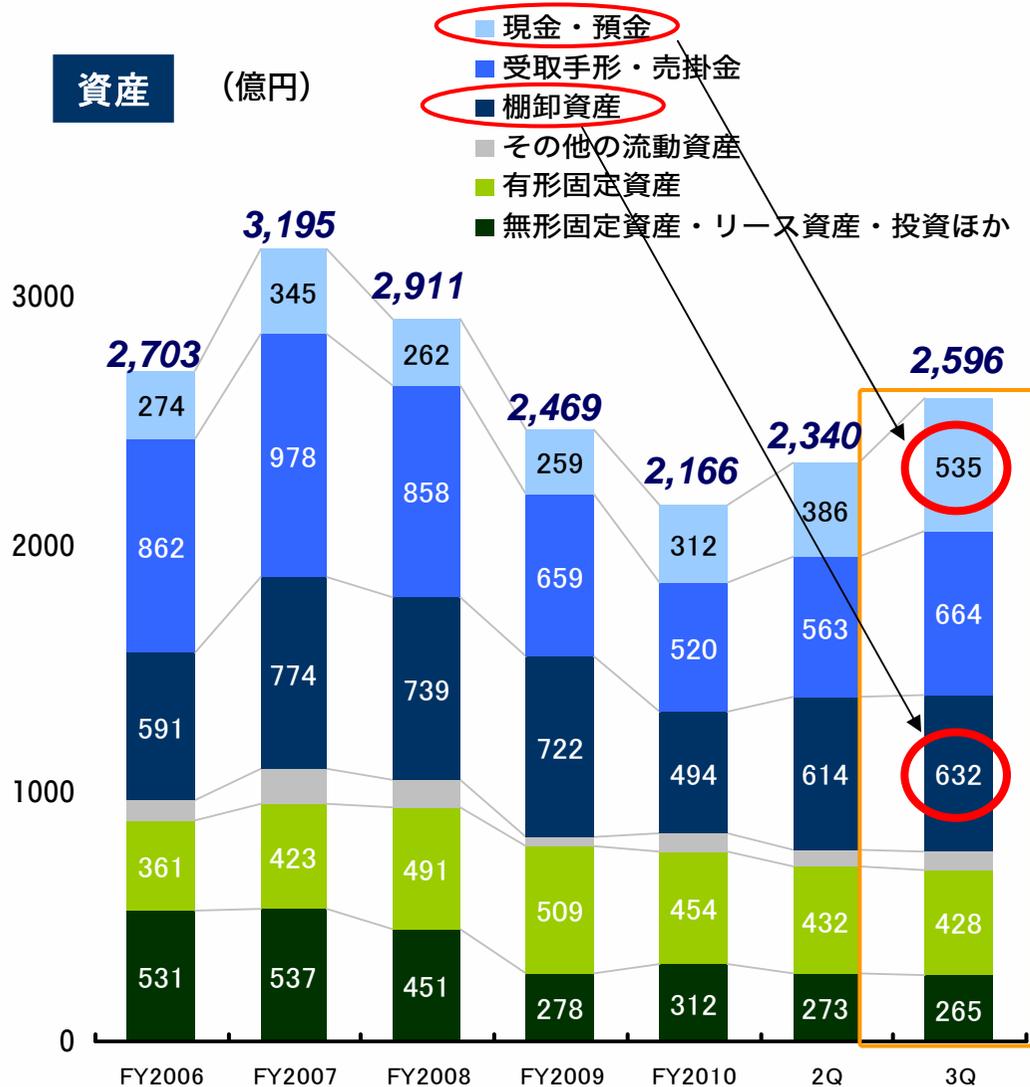
> 3Q受注高は64億円 (連結)  
 > LTPS, OLED向け受注比率 50%以上



地域別受注高  
 (単独)  
 2011年3月期  
 10月 - 12月 実績



# 貸借対照表 (連結)



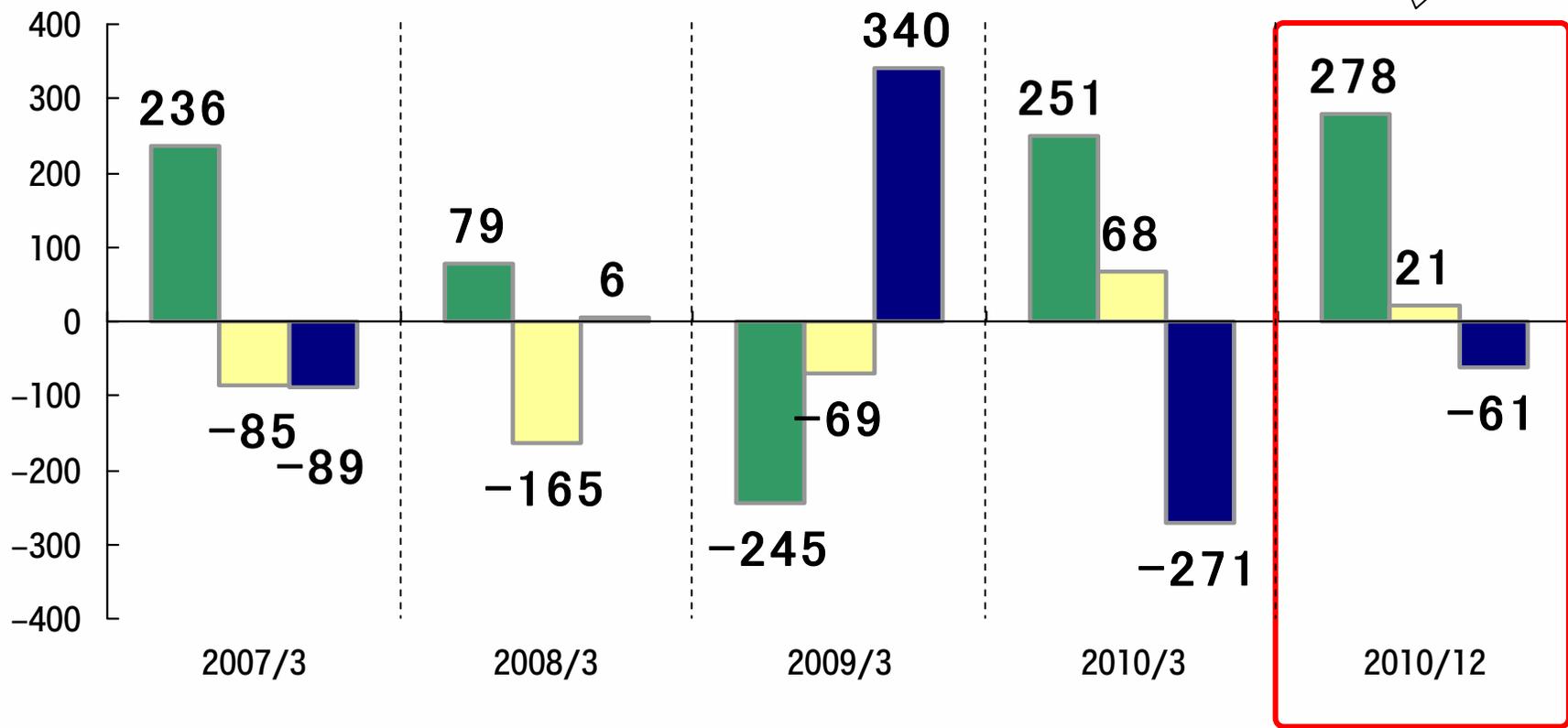
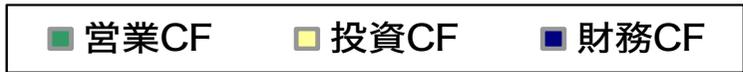
自己資本比率 29.8% (2010/03) → 30.3% (2010/12)

# キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：299億円

営業CF： 278億円  
 投資CF： 21億円  
 財務CF： -61億円

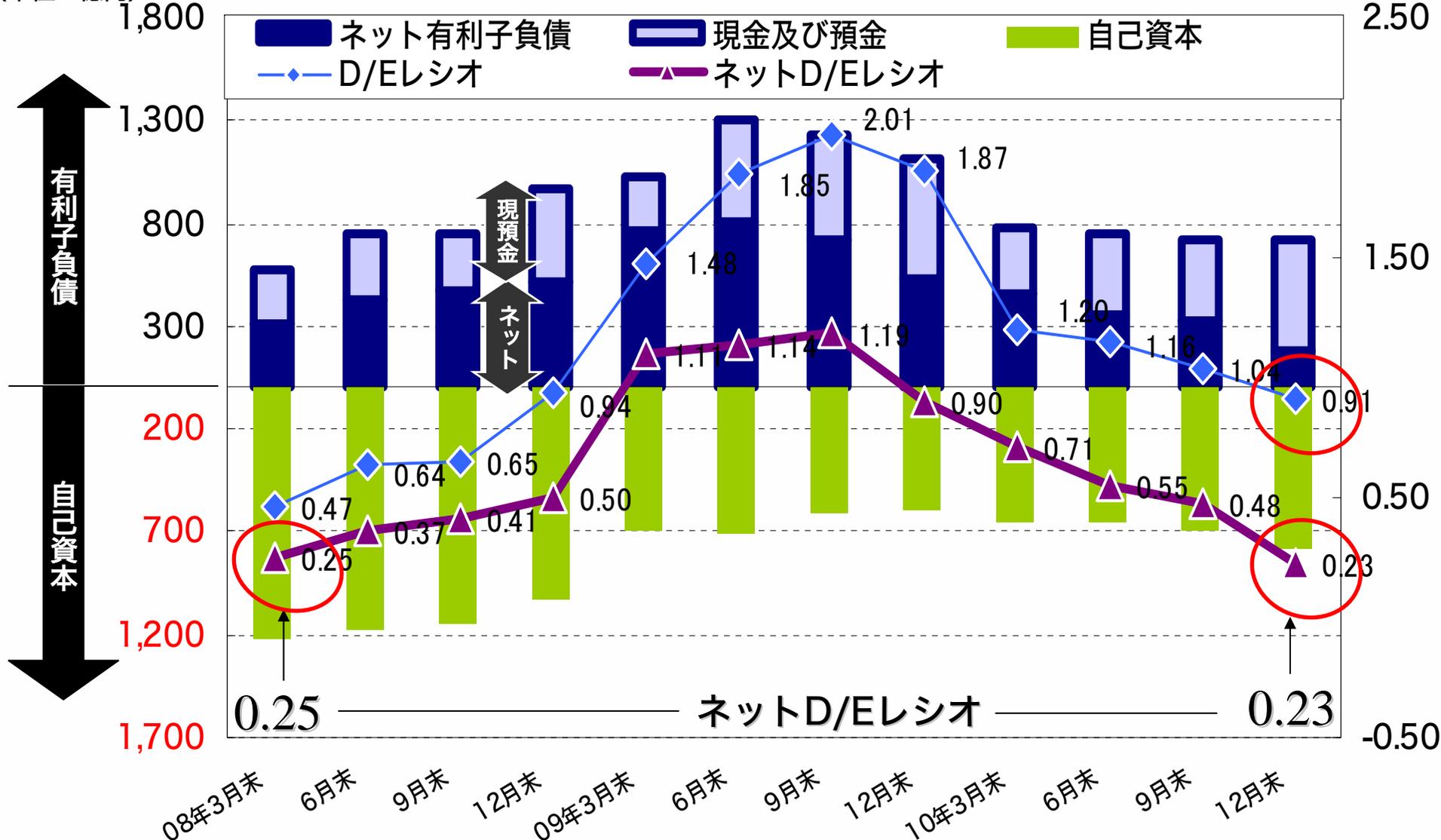
(単位：億円)



# 有利子負債およびD/Eレシオの推移(連結)

有利子負債  
(単位：億円)

D/E レシオ  
2.50



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

# 事業関連

## SE &amp; FE

## 3Qの状況

## 【SE】

- ・枚葉式洗浄装置の新製品SU3200をリリース。更なるシェアアップを目指す！
  - 引き合い良好。順調に受注を伸ばした。
- ・SOKUDO DUO（コーターデベロッパー）毎時350枚以上の技術を確立！
  - DUOの生産性向上が寄与。従来機と共に、売上、受注ともに良好。
- ・グリーンデバイス向け新製品 CW-1500及びZI-2000の販促も良好な滑り出し

## 【FE】

- ・中国投資案件再開。韓国勢が中国政府の認可を得た。
- ・パネルメーカーのLTPS、OLED向けの投資意欲が堅調。
  - LTPS、OLED向けコーターデベロッパーの売上比率、受注比率 上昇。

## 4Qの展望

## 【SE】

- ・ファブドリー、NAND、MPU向け投資に期待
- ・今期後半にかけて大型商談の受注に注力、受注レベルは再び高水準に！

## 【FE】

- ・iPhone、スマートフォン向けLTPS・OLED投資拡大に期待
- ・有機EL向けノズルプリンティング装置（パイロットライン向け）の受注を目指す
- ・中国案件（TV向け大型ガラス基板）の受注に注力

# セグメント別事業環境

## MP

### 3Qの状況

#### 【MT】

- ・CTP販売は2Q比減少も、リーマンショック前の水準を維持
  - アジア地域販売伸長（国内販売は2Q比半減）
- ・PODはOEM販売を中心に回復傾向であるも、売上水準は低レベル
  - 引合いは増加しており市場の拡大が鮮明に！ 「先進国」から「先進国＋新興国」へ

#### 【PE】

- ・2Qの反動から売上、利益ともに低調。露光機の引き合いは堅調に推移。

### 4Qの展望

#### 【MT】

- ・CTP販売台数は堅調（為替や価格低下リスクから、更なるコストダウンに注力）
  - 先進国向け新機種（ハイエンドモデル）受注好調
  - 新興国向け新機種（廉価版CTP）リリース
- ・PODは回復基調（日本、北米、南米地域における販売増加に注力）
  - モノクロ機や高スループット機など市場に合わせた製品の販促を展開

#### 【PE】

- ・3Qは一時的に売上減も、4Qは再び売上増加へ。四半期ベースで再度黒字化を図る。

# MT事業再生計画の進捗

## 目標

- ・ 2011年3月期： 経常損失の最小化
  - 11月発表数字から赤字幅縮小予定
  - 4Q 黒字転換見込み
- ・ 2012年3月期： 経常利益ベースで黒字化

## 進捗

### 筋肉質体制へ、そして再成長・拡大路線へ

※厳しい為替前提 (1\$:JPY80、1€: JPY105)

- ・ 組織規模の適正化
  - 人員シフトをほぼ完了 (1月に80名弱が異動)
- ・ グループ力を生かした開発・製造の最適化
  - CTP廉価モデルを中国生産子会社 (MTMC) にて生産を開始  
グループの技術力、製造力のシナジー効果を図るべく人的交流を開始
- ・ CTP (従来機) は、MTMCへの生産移管を促進
  - MTMCの増床工事着工 (2011年8月完成予定：生産能力は倍増)
- ・ PODは、日・米・欧州地域を中心とした販売力の強化を図る
  - 日・米・欧の拠点にデモ機を設置しソリューション提案を展開中

# 連結業績予想修正

## 2011年3月期 連結業績予想修正

下半期想定為替レート: 1\$=80yen, 1€=110yen

(単位: 億円)

	2011年3月期								2010年 3月期 実績			
	上期		下期				通期					
	実績		11/08予想		今回予想		11/08予想			今回予想		
売上高	1,104		1,445		1,446		2,550		2,550		1,641	
SE	692		1,045		1,050		1,738		1,743		1,009	
FE	174		175		158		350		333		198	
MP	(PE)	233	37	222	30	234	30	455	67	467	67	427
	(MT)		196		192		204		388		400	
その他	3		3		4		7		7		5	
営業利益	110		110		140		220		250		▲ 140	
経常利益	109		105		135		215		245		▲ 172	
当期純利益	95		104		129		200		225		▲ 80	

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

## 再建策は4Qも継続

- 変動費率
  - 3Qは2Q比 若干の悪化  
継続的なコストダウン活動を推進
- 事業再編
  - 子会社損益大幅改善  
SOKUDO：3Qは黒字

## 緊急対策は解除

- 緊急対策は、3月末で終了

## 配当予想修正

- 年間配当金 前回：「未定」 → 今回：5円（年間）配当予想

## 臨時株主総会

- 平成23年4月22日 資本準備金の額の減少および剰余金の処分につき、臨時株主総会を開催予定

## 事業関連

## &lt;SEセグメント&gt;

- ・ スマートフォン、タブレット型端末の需要が、当面市場を牽引
- ・ 受注は4Q以降再び高いレベルへ

## &lt;FEセグメント&gt;

- ・ 中国の新規投資案件計画再開
- ・ LTPS、OLED向け投資は堅調

## &lt;MPセグメント&gt;

- ・ CTP販売台数は堅調 新機種投入による売上、利益確保へ
- ・ PODの引合増加 新機種投入により、市場を取り込む

## 経営課題

- ・ 変動費率の改善（売価維持、コストダウン）
- ・ 既存ビジネス領域における存在感の向上
- ・ 新しい事業領域における地位確保
- ・ 財務基盤の強化（有利子負債の更なる圧縮、自己資本の拡充）
- ・ 再建策から成長戦略へ、全社員一丸となった意識変革

## 次期中期経営計画の骨子

### 経営ビジョン

Fit your needs, Fit your future  
(期待に応じて、未来を形に・・・)

### 経営目標

ダウンサイドにおける収益性の確保  
減少した純資産の回復（自己資本比率の向上）

### 基本方針

- ✓安定した収益構造確立
  - マーケティング力・開発力・設計力・製造力の強化
  - 低価格化への対応
  - 高収益製品の強化と顧客価値創出型製品の育成
- ✓新たな成長への基盤作り
  - グローバル化への基盤整備
  - 既存ビジネス（黒字確保）と新規事業のバランスの取れた成長